

高収量と省力化との両立が可能な ハウスミカン垣根仕立栽培技術

従来の開心自然形によるハウスミカンには、葉数が多く樹容積が大きい傾向のため、作業の軽労化と高収量の両立が困難です。そこで、単純で省力的でかつ高収量となる新しい樹形を開発しました。従来の5倍の栽植密度（10aあたり500本）で、自然形を意識した新しい「垣根仕立て法」を紹介します。

☆ 技術の概要

1. ハウスミカンの垣根仕立てに最適な栽植密度を検証しました、その結果 10a あたり 500 本植え（畝幅 2m x 株間 1m）が最も優れ、樹齢 6 年生で 10a あたり 5 トン以上、樹齢 7 年生で 10 トンの果実収穫量が得られました。
2. 10a 当たり果実収穫量の 5 年間の平均は、従来の開心自然形栽培法の 2.5 倍になりました（図 1）。
3. 「垣根仕立て法」では、ネットを利用することで（図 2）、枝つり作業（枝をヒモなどでつり、すべての果実に光を均等に当てる目的で行う作業）が従来の半分以下の労力に軽減できました。

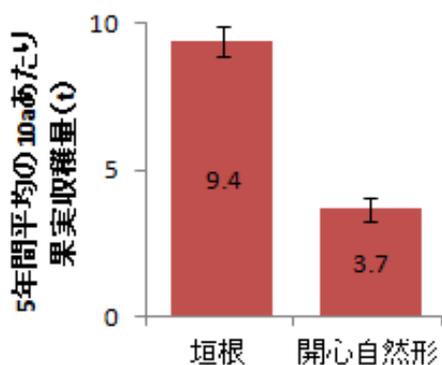


図 1. 果実収穫量の比較



図 2. 垣根仕立て法、ネットでつり上げたミカン

☆ 活用面での留意点

1. ネット設置に要する 10a あたり経費は 10 万円程度です
2. 詳細については、大分県農林水産研究指導センター 農業研究部 果樹グループ 温州ミカンチーム（電話：0978-72-0407）にお問い合わせください。

（農研機構果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田雅人）